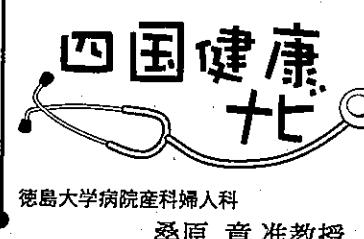


これまでござつたことは、お母さんから知られていました。病氣で明日の命も知れないと言はれ、気持が動転している時に「将来おやんは授からないと考えてください」と言はれて、その時に重大性に気が付く人は少ないか、も知れません。

「命が助かっただけでもありがないのは仕方ない」と従来は考へられてきました。しかし体外受精関連の技術が進歩したことと、から産業の直前あるいは治療と並行して卵子・卵巣を体から取り出し、長い間凍結・保存する事が可能になってき

な、外科、内科など多くの専門家の力が必要な医療で、必要な時にすぐ紹介できる仕組みも必要です。そして将来、患者さんの心身の状態が悪い、妊娠が可能な状態となったら、生治医と産婦人科が協力して、胚移植を融解して体外受精などの技術を使って、安全に妊娠し、出産まで肩掛けが必要になります。当院でもかん患者が病氣を克服し、安全に出産できるための胚、卵子（卵巣）の凍結保存に取り組んでいます。

がん



徳島大学病院産科婦人

桑原 章准教授



がん患者の出産に光明

「かんがるるけれど、将来の
妃は無理かもしれない」
いすれ結婚し子供ができる、
家族と一緒に暮らし毎日が待つ
ていると期待していた女性が、
突然こんなことを語られたのに
二重の衝撃です。私がや田田
病などの治療の副作用として、
卵巣の動きが悪くなること、極
端な場合には卵巣が完全に機能
しないことがあります。胚で精卵は15~20個で
結婚していく場合は精子と卵
子を受精させ、受精卵(胚)を
凍結します。胚凍結・保存の成
功率は85%以上です。未婚の場
合には卵子(未受精卵)を凍結
します。卵子凍結の成功率は直
接の妊娠率ではありません。胚がつくら
ないときもあります。胚がつくら
ないときに一つの妊娠が期待でき
ます。未受精卵は15~20個で